

第2学年A組 国語科学習指導案

指導者 後藤 春子

場 所 2A教室

1、単元名(題材名)

リベンジ立志祭!「宝箱を開ける鍵」をもう一度考え直そう
～質問で相手の思いや考えを引き出しながら話を聞き、比較しながら自分の考えをまとめる～

2、本校の研究との関わりについて

本校研究主題

問いをもち、自ら追究していく生徒の育成

～分かる、できる、楽しいと実感できる授業の実践～

国語科の研究主題

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して「主体的な学習態度」を育てる学習活動の工夫

研究主題を具現化し、目指す生徒の姿に近づけるために、本教科では以下の具体策を講じてきた。

(★は本時で行うもの)

★必要感と意欲がもてるように、導入を工夫する

- ・学習の見通しをもち、意欲を継続することができるように、魅力あるゴールを設定する
- ・身に付けた力が日常生活で生きると実感できるような、振り返りを行う
- ・必要感のある話合いになるように、ゆさぶりの発問を吟味したり、授業の形態を工夫したりする

3、単元(題材)の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。 (1)ア)	①「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。 (A(1)エ)	①言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

4、生徒と単元

(1)生徒について

38名という大人数ながら、どの授業に対しても意欲的に取り組むことができる学級である。小学校からずっと同じメンバーで過ごしてきたということもあり、安心して自分の考えを話すことができる雰囲気があることが、その要因だと考えられる。9月末に行った生徒アンケートの結果で、「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動に進んで取り組んでいると思う」「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と答えた生徒が、どちらも90%を超えていることから、級友と交流しながら学習を進めることを好んでいることが分かる。

しかし、その様子を見ていると、個で考える前に周囲に意見を求めたり、相手の答えをそのまま写して自分の考えとしたり、周囲の主張を受け入れず、強引に自分の考えを班の意見として発表したりするなど、交流はしていても、それが学びの深化につながっているとは言えない状況にある。子どもたちが、『友達の話を聞く』とはどういうことか、「自分の考えが深まったり広がったりした」とはどのような状態なのか理解できていないためだと考えられる。

これまで、「話すこと・聞くこと」の学習では、総合的な学習の時間とタイアップして、1年生に職場体験学習の報告をするための、相手に伝わる話し方や発表資料の作り方などを学んだ。一方で「聞き方」の学習は不十分であるのが現状である。そのため、意識して相手の思いや考えを引き出しながら話を聞き、自分の考えと比較しながら、考えを再構築する学習を通して、日常生活においても人の話を聞いて、自分の考えを深めたり広げたりする力を身に付ける一助としたいと考えた。

(2) 単元について

本単元は、主として学習指導要領国語科第2学年のA話すこと・聞くこと(1)のエを受けて設定したものである。本単元で「身に付けたい力」は、「論理の展開などに注意して相手の話を聞き、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力」とする。その力を付けるための言語活動は、先日行われた学校祭の振り返り集会で全校生徒に問いかけられた、学校祭テーマである「『宝箱』の鍵は何だったか？」に対する自分の答えを、周囲にインタビューする活動を通して、改めてまとめることとした。

まず、振り返り集会でのインタビューの際、何か物足りなく感じたことはなかったかを考えさせることで、「相手の思いや考えを引き出すインタビューの仕方」について自分の考えをもつ。

次に、前時で見つけたインタビューの仕方を使って、実際にインタビューを行い、友達の考えと比較しながら自分にとっての「宝箱の鍵」は何だったかをまとめる。

この学習を通して、今後の授業の話合い活動や、学校行事のインタビューなどでの、考えを深めるための聞き方につながるよう、本単元を設定した。

(3) 指導について

昨年度の中堅教諭等資質向上研修において、教科の枠を越えての指導案検討会や研究協議会を有意義なものにするためには、協議の視点を決めてから、指導案を作成することが有効なのではないかという意見が出された。修了研修を兼ねている本授業では、その考えを検証するために、予め協議の視点を「授業の手立ては、『主体的な学習態度の育成』につながるものであったか」と設定してから、指導案を作成した。それを受けて、本単元では指導にあたって以下に重点を置きたい。

① 目的意識をもつことができる学習活動の設定

- ・先日行われたばかりの学校祭の振り返り集会での一場面からの気づきを、単元の導入とゴールとすることで、必要感をもってゴールを目指すことができるようにする。
- ・ゆきぶりの発問をして、必要感があり、ただの報告会にならない話合いになるようにする。

② 学びの変容を視覚化することができる学習シートの工夫

- ・自分の考えが深まったり広がったりした状態を実感できるように、インタビュー前とインタビュー後の変容が分かるシートを作成する。

③ 学んだことが日常生活に生きると実感できる振り返りの実施

- ・振り返りの視点を提示することで、本単元で身に付けた力が今後どういう場面で生きてくるか、実感できるようにする。

④ ICT機器の効果的な活用

- ・学校祭の振り返り集会の再現VTRを作成し、用いることで課題意識をもちやすいようにする。
- ・グループごとに出た意見をMetamojiで共有し、考えを深められるようにする。

5、単元の評価規準と指導計画及び評価の計画

(1)単元の評価規準

知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に取り組む態度【態】
①言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付いている。 (1)ア)	①「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	①進んで相手の思いや考えを引き出すインタビューをし、今までの学習を生かして自分の考えをまとめようとしている。

(2)単元の指導計画及び評価の計画(2時間)

時	主な学習活動[活動形態]	教師の支援	評価規準【観点】[方法]
1 (本時)	○ 相手の思いや考えを引き出すインタビューの方法を考え、「インタビューハンドブック」を作る。 [全体][グループ][個]	・モデルとなるインタビューのVTRを流し、イメージしやすくする。 ・友達の考えを共有して個の考えを深められるように、Metamojiで表示する。	・相手の思いや考えを引き出すために、インタビューする際はどのような工夫をすればよいのか、具体的に挙げてハンドブックに記入している。 【知①】[学習シート]
2	○ 前時で学んだインタビューのコツを生かして友達にインタビューし、改めて自分にとっての「宝箱の鍵」は何だったかをまとめる。 [トリオ][個][全体]	・考えが深まったと実感できるように、変容が見て取れるシートを準備する。 ・友達の考えを共有して個の考えを深められるように、Metamojiで表示する。	・インタビューを通して、友達の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 【思①】[学習シート]

6、本時の展開(1/2時間)

(1)本時のねらい

相手の思いや考えを引き出すための、一問一答にならないインタビューの方法を考えることができる。

(2)学習過程

<p>主な学習活動 □ 生徒の姿</p>	<p>形態</p>	<p>◇教師の支援 ●つまずきの見られる生徒への手立て 評価規準と方法【観点】[方法]《本校研究との関わり》</p>
<p>1 本時の流れとめあてを確認する。 □ 同じ答えばかりだな □ 一問一答になっている □ 何が悪いのか分からない</p>	<p>全体</p>	<p>◇イメージしやすいように、当日インタビューされた人たちに質問し直す。 ◇聞き手に意識が向かない場合は、聞き手に問題があると明言する。 ◇「相手の思いや考えを引き出せた」というのはどういう状態なのか、イメージできるように、具体的な姿を例示する。《★》 ●問題点が明らかになるように、何人かに「引き出すインタビュー」にするための例を挙げさせる。</p>
<p>相手の思いや考えを引き出すためのインタビューにするには、どうすればよいだろうか。</p>		
<p>2 「引き出すインタビュー」の具体策を考える。 □ 答えやすい雰囲気を作るなど態度面を改善すればよい □ 相手の答えを受けてさらに質問することが必要だ □ 分かりやすい言葉に言い換えて質問するなど、聞き方を変えればよい □ 分からない</p>	<p>個 (one タイム)</p>	<p>◇態度面に関する改善策ばかりにならないように、意識して説明する。 ◇必要感をもてるように、思わず試しにインタビューしてみたいくなるような発問をする。 ●イメージできるように、ヒントとなる動画を準備する。</p>
<p>3 班の代表が、自分の考えた改善策を使って実際にインタビューし、グループでさらに具体的な改善策を考える。 □ 相手の思いや考えを十分に引き出したので、この案で大丈夫だ □ 一問一答にはならなかったが、物足りない □ 一問一答になってしまった</p>	<p>班 (one チーム)</p>	<p>◇インタビューする人、される人、傍聴している人、それぞれの立場から意見を言うように助言する。 ◇全体で共有できるように、Metamojiに記入させる。 ◇考えを深めたり広げたりできるように、何班かに発表させる。 ●具体的に考えられるように、デジタル教科書の動画を見るように助言する。</p>
<p>4 出た意見の中から、自分で使いたい策を選び、「インタビューハンドブック」に記入する。 □ 自分の意見だけでなく、班員や他の班の意見も参考にしよう □ 自分の意見に自信がないので、他の人の意見を採用しよう □ どれも選ぶことができない</p>	<p>個 (one タイム) 全体</p>	<p>◇選択肢が増えるように、他の班のアイデアも見るようにする。 ◇自分の考えと他人の考えが区別できるように、色分けして記入するよう指示する。 ●自分が質問者になった時に、できそうなものを選ぶように助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>相手の思いや考えを引き出すための、一問一答にならないインタビューの方法を挙げて、ハンドブックに記入している。 【知】[学習シート]</p> </div>
<p>5 次時の活動を確認し、振り返りを行う。</p>	<p>個</p>	<p>◇「GET」の視点を提示し、本時で何が分かったのか、実感できるようにする。 ◇次時でハンドブックを使ってインタビューを行うので、改めて自分にとっての「宝箱の鍵と中身」は何だったのかを、考えておくように助言する。</p>